

聖心女子大学グローバル共生研究所 シンポジウム 大学生からの質問

日本にいる難民の現状と課題

日時：2018年1月16日（火）13：30～15：00

会場：聖心女子大学ブリット記念ホール

主催：聖心女子大学グローバル共生研究所

共催：聖心女子大学国際交流学科

協力：聖心女子大学学生活動団体SHRET

プログラム

(敬称略)

司会：飯森安岐子（聖心女子大学基礎課程1年）

- | | | |
|-------------|---|--|
| 13:30～13:35 | 開会挨拶 | 小川早百合（聖心女子大学グローバル共生研究所副所長
文学部国際交流学科教授） |
| 13:35～13:50 | 《学生による難民問題の理解のまとめ、および本日の質問事項》
趣旨説明 および 日本の難民問題について | 岡田英里（聖心女子大学 文学部国際交流学科2年
難民支援学生団体 SHRET2017 年代表） |
| 13:50～14:30 | パネリストからの回答 | 菱田泰弘 法務省入国管理局総務課難民認定室 補佐官
池上清子 難民審査参与員
長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科教授
吹浦忠正 社会福祉法人 さぼと 21 理事長
NPO 法人 難民を助ける会特別顧問
ホワ グム ラット ソウ
UNHCR 難民高等教育プログラム大学生（明治大学）
川内敏月 UNHCR 駐日事務所副代表・法務担当 |
| 14:30～14:50 | 質疑応答 | ファシリテーター：佐々木初奈子
（聖心女子大学 文学部国際交流学科2年） |
| 14:50～15:00 | まとめ | 増田京美（聖心女子大学 文学部国際交流学科4年） |

2018年1月16日「日本にいる難民の現状と課題」シンポジウム パネリストへの質問

■ 菱田泰弘氏への質問

- ・法務省の方たちは日本にいる難民に対して実際どのような活動をしているのか。
- ・難民の法的地位を未だ得ていない難民が、法的に難民なるまでのプロセスはどのようなものか。
- ・日本に在住の場合、難民になると、国籍や身元証明はどういった扱いになるのか。
- ・国際協力のためにも難民受け入れをすべきだが、受け入れを阻む一番の要因は何か。インドシナ難民を受け入れたときと今では何が違うのか。
- ・入国管理局で移民とともに難民を扱うのではなく、難民について特化した機関を作るべきという意見についてどう考えるか。

■ 池上清子氏への質問

- ・日本はなぜ難民認定が少ないのか、審査が通りにくいのか。審査の基準はどこに設けているのか。
- ・なぜ日本では難民でない人が申請する率が高いのか。
- ・判断が難しいこと、既存のルールでは決められない例外はあるのか。
- ・偽装難民を取り締まることで本当の難民の許可が遅くなることはないのか。
- ・仕事上で、つらい、もどかしい、と感じることは何か。

■ 吹浦忠正氏への質問

- ・様々な難民支援のNPOが存在するが、実際に日本国内でどのような活動をしているのか。
- ・一番支援が難しくかった例は何か。
- ・難民を助ける上での理想のゴールは何か。
- ・実際に現場に足を運ぶことにより、現場のニーズと私達との支援の間にギャップはあるのか。
- ・どうしても自分が「支援する側」の立場になってしまい、対等に接することができない。どのような心持で当事者に接したらいいか。

■ ホワ グム ラット ゾウ氏への質問

- ・日本に来ることになったいきさつは何か。
- ・自分が難民であると認識したのはいつ頃か。
- ・難民というレッテルにより、苦しい経験をしたことはあるか。
- ・自分のアイデンティティについて、どのように考えているのか。また、どのように保っているのか。
- ・どのような将来を考えているのか。

■ 川内敏月氏への質問

- ・難民問題の解決とは何を指すのか、それに対して UNHCR はどういったサポートをするのか。
- ・難民の定義は「自分の国から外へ逃れていること」とされているが、母国を出られずに困難に陥っている人もいると聞く。難民の定義を変更するべきだと思うか、どのように変更すればよいか。
- ・難民を生み出す国の問題を根本的に解決せず、各国に難民を振り分けていくことは本当に最善の策なのか。
- ・難民支援をする国際機関から見た日本の立場とは何か、また日本政府に求めることは何か。
- ・日本国民に難民を身近なものとしてもらうにはどうしていけばよいか。